

サポクラ 通信

令和5年(2023年)6月号

今月の内容は...

- ・こども動物園いろいろやっています！1
- ・モンキーvsエンリッチメント5
- ・ハイエナ^{とたい}屠体給餌8

こども動物園

いろいろチャレンジしています！！

サポートクラブのみなさんこんにちは！

いつも動物たちへの温かいご支援ありがとうございます。

昨年度から引き続き、エゾユキウサギとリスザルを担当しています、飯島です。

実は、4月からこども動物園のメンバーが一新されました！

昨年度から残っているメンバーは私一人…

ちょっと心細いですが、心機一転！新しいことにチャレンジしていきたいと思います！

今回のサポクラ通信ではそんなチャレンジについて紹介します！

チャレンジその1～エゾユキウサギに野草をどしどしあげよう～

これは毎年恒例ですが、新芽が伸び始める4月から9月くらいまでのあいだ、野草を主食とするエゾユキウサギに園内で採れた野草を給餌しています。

今のところ、一番人気は「ヤナギ」です。葉だけでなく、樹皮まできれいに食べてしまいます。驚いたのが、フキを給餌した時、若い葉は残さず食べたのですが、大きすぎる葉は硬いのか、ほとんど残していました…

6月からクローバーと青草の給餌が始まり、野草を与えてもあまり反応が良くないこともありますが、園内で取れた雑草（ごちそう）をたくさん与えていきたいと思っています！



フタナ



ヤナギ

チャレンジその2～ヒツジの毛刈り～



またまた毎年恒例ですが、5月にヒツジの毛刈りを実施しました。昨年は1頭ずつ毛刈りをしたのですが、今年は2頭ずつ毛刈りをしました。

実は、毛刈りの時にヒツジを横倒しにすると、食べ物が逆流して誤嚥してしまうことがあります。そのような事故を防ぐために前日から絶食をするのですが、1頭ずつ行うとなると、計4回絶食をしなければなりません。草食動物のヒツジは、胃の中を空っぽにすることもあまりよくないので、今年は思い切って2頭ずつにしてみました。

私は3回目の毛刈りですが、他のメンバーは初めての毛刈りだったので、初めて使うバリカンに四苦八苦しながら無事毛刈りを終えることができました。

これから暑い日が続きますが、どうか乗り切ってほしいと思います。

チャレンジその3～ウマの散歩と体重測定～



実は、円山動物園で飼育しているウマ(シェットランドポニー)たちは、ちょっと太り気味です…広い放飼場がありますが、運動量が足りないのかもしれない。年に数回来園し、蹄を整えてくれる削蹄師さんからは、ちょっと体格が良すぎるかもね～、と言われてしまいました。

ヒトと同じで、太りすぎは様々な悪いことを引き起こします。特に、ウマの

場合、体重が重すぎると蹄を初めとする脚部に負担がかかり、様々な障害が出てしまう可能性があります。このままではよくない!ということで、「運動量の増加」と「体重測定」を目標に、ウマの散歩を始めました。



2021年までは、不定期で動物園の裏側を散歩していたのですが、昨年度は実施できず、今年の春久しぶりに散歩をしようとしたころ、頭絡(ウマの頭につける馬具)をつけるのすらも嫌がってしまいました。これはマズイ!ということで、頭絡をつけたらおいしいご褒美があるよ、ということ覚えてもらい、なんとか全頭進んで頭絡を付けるくれるようになりました。一安心です。



飼育員イチオシのベストショット

そしていよいよ散歩デビューです!動物園の裏側には雑草(ごちそう)が沢山あります!!ウマたちも大興奮で手綱を持つ我々を引っ張る勢いで歩いていました。そして、雑草といえど好き

嫌い、おいしい、まずいがあるようで、唇で草を確認しながら食べていました。散歩をして初めて気づいたのですが、さとし(オス)はタンポポの花、しずたろう(オス)はフキ、といったように個体によって好みが全然違いました!



散歩に慣れてきたら今度は体重測定にチャレンジです。こども動物園にはウマの体重を計れる体重計がないので、ちょっと遠出をしてゾウ舎に借りに行きました。仔ゾウ用に新設された体重計のテストもかねて、ウマに乗ってもらったところばっちり計測できまし

た!初めての体重測定で、しっかり体重が把握できたので、ダイエットがうまくいのように担当者と一緒に散歩と体重測定、そしてちょっとだけ食事制限もしていこうと思います!

こども動物園裏話

エゾユキウサギに大人気のヤナギは、他の動物にも大人気です★



こども動物園裏話②

サポクラ通信4月号でお知らせした種まきですが、6月になってこんなに伸びました!

ニワトリたちはクローバーをおいしそうに^{ついで}啄んでいます。



モンキー VS エンリッチメント

円山動物園サポートクラブの皆様、初めまして。松本直也（まつもとなおや）と申します。
いつもご支援いただきありがとうございます。今年4月からマンドリルやフサオマキザルなどの霊長類を飼育展示するモンキーハウスと 北海道の在来生物の保全活動の一環として飼育を開始しているトガリネズミの担当になりました。どうぞよろしくお願い致します。
今回は飼育環境を改善する取り組み「エンリッチメント」についてお話しさせていただきます。

序章：エンリッチメントとは…奥深し…

エンリッチメントといえば、ものを転がしたり（写真1）、編み込んだ消防ホースのなかを探したり、骨に噛みついたり、動物の動きを促すものが多いですね。これらのエンリッチメントに用いる道具は「おもちゃ」と表現されることもありますが、ただの「おもちゃ」ではありません。これらは、動物たちが進化の過程で得た能力や生態を理解し、それらを発揮できない欲求不満を解消するために必要な構造や機会を提供していくためのものです。結果として遊んでいるようにも見えますが、奥深いですよ…



エピソード1：「魔法の切り株」

この切り株は、フサオマキザルの屋内飼育場に出現しました。フサオマキザルを惹きつける魔法の切り株（写真2）です。というのも、この切り株は内部が空になっていて、上部には網がついています。切り株のなかには大好きなカボチャの種があります。そして、重要な鉄の匙（さじ）。不思議な切り株ですよ。フサオマキザルは野生下で「道具」を使う行動が確認されています。硬い木の実を割るために石を持ってきて割るようなこともできます。ピューマやジャガーなどの大型肉食獣と生息域を共にする小さな霊長類は、進化の過程でとてつもない学習能力を得たようです。飼育下でもその能力を発揮させられるようにこの構造を設けました。設置して1週間は警戒して近づくことも避けていましたが、2週間後には種を取ろうと試行錯誤し始め、3週間後には匙を使って苦戦しながらも種をすくい取っています（写真3）。まだ2頭のうち1頭しか獲得できていないようですが、その成長過程にこちらも学ばされます。さすがですね。





(写真4)

エピソード2：「カボチャの竹筒」

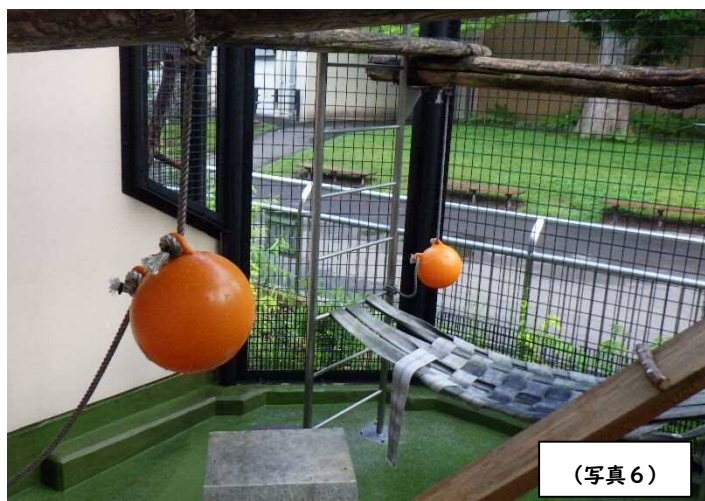
この竹筒は、フサオマキザルの屋外飼育場に出現しました。これも学習能力を発揮してもらうために提供したカボチャの種が入った竹筒です。この竹筒の一箇所に種2つ分の大きさの穴が空いています。フサオマキザルは初日からすぐに竹筒を投げたり、振ったりして種を出して取っていました。次第に竹筒を転がすだけで取ることを学習し、効率がよくなり利用時間が短くなってきました(写真4)。そこで、転がせないように飼育場の上からロープで括ってみました。ロープで少し浮かせているので竹筒は転がしづらくなりましたが、今度は高い場所に竹筒を持って行ってロープを弛ませ転がせるようにして利用するようになりました。さすがです。私も負けてはいられません。今度は床側からもロープで括り、高い場所に持っていけないようにしました。私の勝ち。そう思ったのはつかの間でした。近くの水容器のなかに竹筒を入れて、種を水で浮かせて取り出すようになりました(写真5)。今は連敗中です。まるで私のためのエンリッチメントです。



(写真5)

エピソード3：「ダブル空中浮ボール」

ドグエラヒヒの屋外飼育場に出現したオレンジの浮き玉(写真6)。この浮き玉には横側に補充用の大きな穴、下側にも小さな穴が開いていて、揺らすと小さな麻の実が少しずつ出るようになっています。設置直後は、大きく揺らしていたものの高所に持って行って揺らさずに中身を取るようになったため、下からも括っています。また、なぜこの高さなのかというのもポイントです。実際に利用している姿を見てもらえると分かりやすいのですが、「揺らせる場所」と「実が落ちる場所」が異なります。浮き玉を揺らせるのは少し高い場所ですが、そこから実が床面に落ちてしまいます。するとドグエラヒヒは揺らしては降り、揺らしては降りと上下の移動を繰り返すようになります(写真7)。ドグエラヒヒは草原に生息していますが、ライオンやチーターに遭遇した場合には岩山を駆け上るなど、登る行動も得意としています。これらの動きを発揮してもらうために、高低差は岩山とまではいかないものの、浮き玉の高さと場所がポイントになっています。



(写真6)



(写真7)

「カラカラの木」

…葉をカラカラに乾燥させ束ねた枝のなかに野菜を入れてあります。葉で野菜は見づらくなり、枝から実を取るように野菜をとることができます。



「ラクラク綱渡り」

…ロープに取り付けたプラスチック性のネットのなかに餌を入れてあります。細めの枝など不安定な場所の果実を食べるように四肢でしっかりとぶら下がり餌をとることができます。



「大木の隙間に」


…少し重めで短い丸太を集めて、そこに麻の実や野菜をばら撒いているため、丸太をどかして隙間の餌を採食しています。大木や石をどかして下に隠れた昆虫を取るような野生下での採食行動を促せるようにしています。



「野菜の巣」

…丸太に取り付けたプラスチック性のネットのなかに餌を入れてあります。樹上で熟れた果実を探すように指で葉野菜をよけながら、不安定な高所で餌をとる行動を促すことができます。





と たい 屠体給餌

みなさんこんにちは、ブチハイエナ担当の佐々木です。
サポクラ6月号は、屠体給餌についてお話しさせていただきます。

—屠体ってなに??—

あまり聞きなじみのない言葉ですが、
簡単にいうと、**‘動物の死体’**のことです。

つまり、屠体給餌は、動物の皮や骨がついたままの肉を給餌することです。
海外の動物園や水族館では、牛などの大型動物の屠体を動物園動物に給餌していますが、
日本の動物園においては大型屠体の入手が非常に困難であることや施設の面から
実施することが難しい状況です。

そこで近年では、農業や人的被害で深刻な問題になっている、シカやイノシシなどの
害獣駆除で発生した屠体を動物園で利用する取組が注目されています。

円山動物園でも去年の秋以降、試験的に実施しています。

—動物園動物の動物福祉の課題—

ブチハイエナは、メスを中心とした数頭から約90頭にもなる群れを作って生活する動物です。

野生のブチハイエナの餌は、シマウマやヌーなどといった草食動物の他に、ダチョウの卵や魚、腐肉などです。

腐肉を漁ったり、他の動物の餌を奪うイメージが強いハイエナですが、実は食べているものの6割以上は狩りで得たものだということがわかっています。

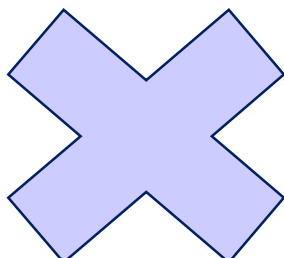
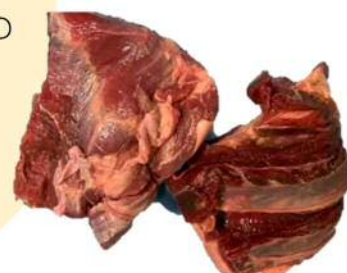
獲物を捕らえた後は、鋭い牙や、舌、頑丈な顎を使って、**引きちぎる、**

かみ砕く、しゃぶる、剥ぐなどの動作により、骨や皮、蹄までも

きれいに食べます。ハイエナが食べ終わると丸々一頭きれいになることから‘サバンナのお掃除屋’とも言われていますが、飼育下では、骨や皮はきれいに取って加工された状態の肉を給餌しています。この状態では、野生本来の行動が減ってしまうほか、採食に費やす時間も短くなってしまいます。

動物園では、十分な栄養価が取れて健康な暮らしができたとしても野生本来の姿が発現できにくい環境になってしまうのが問題です。

加工された馬肉



—地域の野生動物の獣害問題—

日本全国では、シカやイノシシは畑を荒らすイメージが強いと思いますが、それ以外にも家畜の伝染病を媒介するなど含めての農業被害、人がかまれたり交通事故が起きたりする生活被害、特定の動物が増えすぎて森林の草が食いつくされてしまうなどの生態系被害といった獣害問題が各地域で起きています。

農業被害だけでもシカ、イノシシ合わせて110億円を超え、1年間で**100万頭**が駆除されています。そのままにしておくと人だけでなく、自然界のバランスまで崩れてしまうこともあるのです。さらに、**9割**が食用などに利用せず、やむを得ず廃棄されているのが現状です。

この2つの問題をつなぐのが、屠体給餌です！

野生動物の屠体を動物園動物に給餌しても大丈夫??

もちろん寄生虫、細菌、ウイルスなどの危険性を
考慮しなければいけません。

加熱することで、これらを死滅させることはできますが、骨や皮が
はがれてしまため、できるだけそのままの品質を残す方法として
低温殺菌処理方法を用いています。

こうすることで、安全に、できるだけそのままの形やにおいを残して
給餌することができます。



これまで4回ほど屠体給餌していますが、最初はどのように食べれば良いのか分からず、とりあえず噛んでみたり、水につけたり、とにかく時間がかかりましたが、今は効率よくおいしい部分から肉を剥ぎ取るように骨まできれいに食べています。

こうした動物園動物における動物福祉向上の課題と地域の獣害問題について、屠体給餌を行うことで、ブチハイエナの野生下行動の発現や採食時間の増加が見られ、駆除個体を有効に活用できるなど双方にとってよい取組であると考えます。

こうした取組をみなさんに知ってもらうことで、動物の生態や獣害についてより詳しく知ってもらうきっかけに繋がると思います。

飼育員として、動物園動物にとってより良い環境を模索するとともに、より多くの人に地域の野生動物の獣害問題について発信できるよう、努めていきたいと思ひます。

屠体給餌は不定期の実施になりますが、事前にお知らせしますので、普段とまた違うブチハイエナ「カミ」の行動をぜひ見に来てください。

骨や皮の吐き戻し

